

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2293100026		
法人名	(株)オアシス		
事業所名	グループホームオアシス中之郷 1階		
所在地	静岡県富士市中之郷3152-1		
自己評価作成日	令和4年4月16日	評価結果市町村受理日	令和4年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCd=2293100026-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和4年5月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気づくりを大切にし大家族のような温かみのある場所の提供を心掛けています。ひとりひとりの生きがい、尊厳を保持し個別支援に力を入れています。アクティビティを沢山取り入れ、季節の行事や外出の機会を確保し生活にメリハリをつけるように心掛けています。現在はコロナ禍で外部のイベントは中止されていますが、以前は年間60件ほどの外部のイベントを招き入れて賑やかに過ごしていました。コロナが収束し環境が整えば再開する予定です。現在は施設内でのレクリエーション活動が主流ですが、毎日午前中に散歩を行っており季節の移り変わりを感じていただき外気浴を行うことで昼夜逆転を防ぎ健康的な生活習慣の提案をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、理念と「オアシス十カ条」を整え、日々の朝礼や「ホーム会議」にて職員研修や情報共有に注力し、理念の実践に取り組んでいる。管理者会議やホーム会議、委員会活動、グループ面談や個人面談により、職員意見の聴き取りを図り、事業所運営に繋げている。管理者は「オアシスだより」や担当職員の「一筆箋」を毎月家族に送り、事業所での暮らしぶりを伝えて家族からの意見の聴き取りに注力している。コロナ禍の中であっても、感染防止対策に厳格に取り組みなから、日課の散歩や法人デイサービス利用者との交流、近隣公園への遠足やドライブ等、積極的な外出や近隣住民との関係継続を図っている。管理者は職員と共に利用者・家族本位の支援を心掛け、職員全員によるカンファレンスやモニタリングにより介護計画作成に繋げている。季節を感じる室内環境作りと感染防止対策に配慮しながら、利用者と共に手作りの食事の調理や清掃を行い、利用者本位の暮らし方を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、オアシス十か条を事業所内に掲示してある。朝礼やホーム会議で読み上げています。	法人運営事業所の「管理者会議」、事業所の「ユニットリーダー会議」、法人代表も参加する職員全員参加の「ホーム会議」にて、法人理念の共有を図っている。職員は、ホーム会議や朝礼にて理念や「オアシス十か条」を読み上げて確認し、常に理念に基づく支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で地域の方々と職員、利用者様が挨拶を交わす関係性ができていて地域活動に参加していることもあり見守っていただける関係である。	コロナ禍であっても、感染防止対策に注意を払いながら日課の散歩を欠かさずに行い、以前と変わらず近隣住民とのふれあいを継続している。事業所向かいの公民館での行事や地元中学生の職場体験・幼稚園児の訪問の受入れなど、コロナ後を見据えて、関係継続を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭りは毎年参加させていただいています。オアシスでは皆様と一緒に作ったちらし寿司を150食ほど寄付させていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面開催となっているが、日ごろの様子がわかるオアシスだより(写真集)を毎月と運営推進会議報告書を2月に1回ご家族に郵送している。	コロナ禍の折り、運営推進会議は書面にて開催しているが、平時は市や地域包括支援センターの職員、自治会長、民生委員、家族の参加がある。議事録は、地域包括支援センターへは手渡しし、家族には事業所のお知らせ「オアシスだより」とともに送付し、事業所の現況や取り組みを報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターには相談等で訪ねていきます。地域包括支援センターによる研修会や地域ケア会議に参加しています。	地域包括支援センターが行う「地域ケア会議」(4回/年)や研修会、富士市GH連絡会(3回/年)に積極的に参加し、行政との情報共有と意見交換を図りながら、事業所運営に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアになっており出入りは自由に行えるようになっています。身体的拘束に関する研修は3月に1回行っていきます。	指針・マニュアルを整え、「身体拘束適正化委員会」を3か月に1回開催し、身体拘束を行わない支援に取り組んでいる。現在該当する利用者はいないが、ホーム会議開催時に定期的に研修会を行い、身体拘束に関する知識の習得と理解を図っている。	

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を定期的に行い自分の介護を振り返る検討会を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する利用者様がおり地域包括支援センターに相談したり内部研修で取り入れることもあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な説明を行い利用者様、ご家族が納得した上での契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日常的なコミュニケーションの中から聞き出すことはあります。ご家族に関しては来訪時や電話対応でお話を聞くことがあります。玄関に意見箱を設けています。	写真を掲載した「オアシスだより」や担当職員からの「一筆箋」を毎月送り、事業所での暮らしぶりを伝えている、コロナ感染防止対策を図りながら、玄関での家族面会を継続している。管理者はこまめな電話連絡を心掛け、家族からの意見の聴き取りに注力している。	事業所の運営にあたり、家族の意向や要望の聴き取りは重要なことから、年に1回程度、家族への「満足度アンケート」を実施するなど、家族からの意見抽出の積極的な取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は各々の委員会活動があり、意見や改善点等をホーム会議で発表する機会を設けています。	職員は「感染防止」「事故防止」「防災」「環境」など9つの委員会を分担し、ホーム会議にて改善点等の提案・意見交換を図っている。法人代表と管理者はホーム会議での職員の意見や提案を汲み上げ、管理者会議により法人内での情報共有を図っている。	法人は、職員とのグループ面談(毎月)や個人面談(2回/年)を行い、職員からの意見の聴き取りに努めているが、職員自らが作成する「自己評価シート」を基に話し合いを行うなど、より実効ある取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホーム会議に参加し、定期的にホームの様子を見にきます。月に1回の管理者会議で業績や現場環境の確認を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム会議内で内部研修を行っています。毎回テーマを変えていますが職員からのリクエストにも答えられるようにしています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市グループホーム連絡会を通じて交流会、研修会等に参加しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と可能な限り数回面談して信頼関係を築いていく努力をしています。その中で本心を聞き出せるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様同様に初回でご家族の困りごとに対してどのくらい答えられるのかを明確にすることで不安が軽減されると考え、ホームのスライドやお便り等の入居者様の笑顔を見ていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべく要望に応えられるように努めていますが本人とご家族にズレが生じるときは修正させてもらっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にしていますので、大家族に一員として一緒に家事を行ったりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は大家族の一員としては存在しますが利用者様の本当のご家族が優先ですので我々はしっかりと線を引き支援しています。ご家族にはオアシスだよりのほかに担当職員から毎月手書きの一笔箋をお送りしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援を大切にしていますから、法人グループのデイサービスにあるカラオケの利用や旧友とのおしゃべりについて楽しむ日を提供したり、ご家族とゆっくりと過ごす時間を提案させてもらっています。	コロナ禍による制限がある中でも、家族面会、法人運営のデイサービス利用者との外出・交流や訪問理美容の利用など、利用者個々の希望を聴きながら、関係継続を支援している。事業所全体が大家族と考え、利用者同士・職員との関係継続に配慮した支援を心掛けている。	

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんどの方がリビングで過ごしますので利用者様同士の相性の把握ができる状況にあります。それらから配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的にホームで亡くられるか病院で亡くられるかになってしまっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に努めていますが困難な場合もあります。毎月カンファレンスを行い困りごとを話し合っています。	管理者は、入居時に「フェイスシート」や「課題分析シート」で得た情報を「課題整理統括表」にまとめ、職員と情報共有を図っている。入居後の状況は、毎月カンファレンスにて、担当職員を中心に全職員が意見交換を行い、利用者・家族の意向に沿った支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の経歴は本人、ご家族、前ケアマネがいれば情報提供のお願いをしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月カンファレンスを行っているので担当者からの報告や困りごとを話し合っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様にはそれぞれ担当職員がいますので担当職員と他職員、ケアマネ、看護師、医師、本人の訴えを出し合いカンファレンスを行っているので、常にチームで支えています。	利用者の日々の状況をiPadを活用した「ケース記録」と「特変記録」に記載し、毎月のカンファレンスでは、担当職員を中心に全職員で活発な意見交換により、介護計画作成に繋げている。管理者は、都度職員・家族との連絡を心掛け、医師・看護師との情報を共有する体制を整えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在はアイパットを利用し介護記録をしています。特変があれば別紙に記入するようにしています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の散歩やホームでのイベントを沢山行っています。春、秋の遠足や、テラスでバーベキューパーティーを行ったり、個別支援にも力を入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭り、防災訓練への参加。近所の商店への買い出しを行っている。最近では移動スーパーが月2回来てくれます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の7割が協力医の月2回の往診を受けています。その他の協力医療機関として歯科医、マッサージ師の往診があります。3割の方はご家族による受診がほとんどですが、職員が受診同行する場合もあります。	協力医の月2回の往診と法人職員の看護師による週1回の訪問により、利用者の健康を管理している。管理者・職員は、受診情報を共有するとともに、看護師と常に相談ができる。歯科医師やマッサージ師は往診対応できるが、他科通院の場合は、家族と連絡を取りながら対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回来訪し、利用者様全員と面会しています。必要に応じ電話で相談したり介護職員とは常に情報交換を行いアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	入退院時は同行している。入院中も情報共有に努めている。退院後の方向性やアドバイスをもらっています。日ごろから医療機関の地域医療支援室と連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時にお話しさせていただきますが状態が変わった時には再度話し合いを設け終末期は医師から説明をさせてもらっています。	重度化した際の事業所の対応について、指針・マニュアルを整えて、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。重度化した際には、再度医師とともに家族に説明し、家族の意向に沿った対応を確認している。職員は、定期的に研修を受けて、対応を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急蘇生法の研修を受けています。緊急時の対応に関しては定期的に内部研修を行っている。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加して災害時は協力体制がとれるようになっています。土砂崩れ、津波の際は事業所の2階が待機場所になっています。	災害対策委員会を中心に、テーマ(大雨による土砂災害等)を決めて、年2回防災訓練を実施し、避難経路を確認している。災害時には、事業所2階を一時避難所として利用するよう、地域住民と話し合っている。水・食料は、10日間を目途に備蓄し、台帳管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的な人格の尊重と利用者本位の介護を行うように定期的に研修を行っています。	個人情報保護について入居時に利用者・家族に説明し、新聞等の写真掲載等の同意を得ている。管理者は、人格を尊重した接遇やプライバシー保護について、ホーム会議で定期的に研修を行い、都度確認しながら職員の意識向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりの個性を引き出せるように傾聴したりよく観察しています。過介護にならないように意欲を引き出せるような関りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のご希望を最優先できるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2月に1回訪問美容でヘアスタイルを整えています。毎日着る服は基本的に本人に選んでいただいています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様には野菜の皮むき、刻み、炒める等の調理補助をしていただいています。キッチンがリビングから見える位置にあるため調理の音、においなどから食用増進効果が期待できる。	地元スーパーから食材を調達し、職員手作りによる食事を提供している。法人デイサービスの献立(食材業者作成の献立)を参考にした偏りのない献立作りや、週3回専門職員による昼食作り、お弁当持参の遠足など、利用者の好みに配慮しながら、楽しく美味しい食事提供を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回記録して、十分な栄養が摂れない方はおやつやの量や回数等で調節しています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に職員の声掛けにより口腔ケアを行っています。できない部分に関してはお手伝いさせていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	8割の方が布パンツを使用しています。ひとりひとりの排泄パターンを把握して失敗しない排泄を目指して取り組んでいます。	「排泄チェック表」にて利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレ利用を支援している。安全なトイレ支援を心掛け、二人介助や夜間の声掛け、ポータブルトイレ利用等、利用者の状態に合わせて配慮しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操で身体を動かしています。10時のおやつには毎日フルーツとヨーグルトを召し上がっていただいています。水分補給も声掛けをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴です。本人の希望に合わせて臨機応変に対応します。入浴剤などで気分を変えることもあります。	週2回の入浴を目的に、「入浴チェック表」にて確認しながら、利用者の希望に合わせて支援している。現在、拒否する利用者はいないが、同性介助や入浴剤利用による気分転換など、利用者本位の対応を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で横になったりする時間は基本的にご本人に決めてもらっています。就寝時間もバラバラで本人の希望の時間に休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬委員会があります。服薬管理ファイルがありひとりひとりの情報が入っている。服薬の度に目を通すことになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性は家事をしていた方がほとんどなので家事レクしてもらっています。カラオケが好きな方、歌が好きな方、将棋が好きな方、おしゃべりしたい方、読書したい方、それぞれを楽しめるように配慮しています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では毎日の散歩、近所の商店に買い出し、移動スーパーへ買い物があります。季節の行事では春、秋の遠足があり、ご家族との外出等があります。	日課の散歩や、事業所前公民館に来る移動スーパーでの買い物など、利用者個々の希望や状態に合わせた対応を心掛けている。コロナ禍による外出制限がある中でも、地域の公園への弁当持参の遠足や花見ドライブなど、工夫しながら積極的に外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方はご家族の管理です。おやつやの買い出し等はスタッフと一緒にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙はいつでも自由に行えます。ホームでは年賀状、暑中見舞いの絵手紙をレクリエーション活動で作成しご家族に送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除し清潔を心掛けています。テレビの音は大きくなりすぎないように気を付けています。食事の時間は邪魔にならないように静かなBGMを流しています。温度は軽装で過ごせるように設定し快適に過ごせるように配慮しています。	リビングとダイニングキッチンが分かれていて、利用者は好きな場所で過ごすことができる。中庭の花や室内装飾(置物や人形等)により季節感のある環境作りと、避難経路確保のための整理整頓を心掛けている。感染防止対策として、常時換気及び手すり等の消毒や外出・訪問時の手指消毒を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにベッドが置いてありいつでもどなたでも横になったり座ったりできるようになっています。またリビング、ダイニングが続きになっているのでダイニングで過ごすことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り自宅で使い慣れた物を使用しています。ご家族の写真が飾られています。	洗面台とベッドを備えた居室は、筆筒等の使い慣れた家具や写真を持ちこみ、利用者好みの居心地の良い居室作りを支援している。衣替え等は、家族と連絡を取りながら担当職員が行い、整理整頓を心掛けている。感染防止対策として、こまめな換気と消毒に注力している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は本人が使いやすいようにベッドや家具の位置を調節しています。リビングはできるだけ自由に動けるように空間が広くとっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2293100026		
法人名	(株)オアシス		
事業所名	グループホームオアシス中之郷 2階		
所在地	静岡県富士市中之郷3152-1		
自己評価作成日	令和 4年 4月 16日	評価結果市町村受理日	令和4年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気づくりを大切に大家族のような暖かみのある場所の提供を心掛けています。ひとりひとりの生きがい、尊厳を保持し個別支援に力を入れています。アクティビティを沢山取り入れ、季節の行事や外出の機会を確保し生活にメリハリをつけるように心掛けています。現在はコロナ禍で外部のイベントは中止されていますが、以前は年間60件ほどの外部のイベントを招き入れて賑やかに過ごしていました。コロナが収束し環境が整えば再開する予定です。現在は施設内でのレクリエーション活動が主流ですが、毎日午前中に散歩に行っており季節の移り変わりを感じていただき外気浴を行うことで昼夜逆転を防ぎ健康的な生活習慣の提案をしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2293100026-00&ServiceCd=320&Type=search

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和4年5月6日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、オアシス十か条を事業所内に掲示しています。朝礼やホーム会議で読み上げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で地域の方々や職員、利用者様が挨拶を交わす関係性ができていて地域活動に参加していることもあり見守っていただける関係である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭りは毎年参加させていただいています。オアシスでは皆様と一緒に作ったちらし寿司を150食ほど寄付させていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催していないが、日ごろの様子がわかるオアシスだより(写真集)を毎月と、報告書を2月に1回ご家族に郵送しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターには相談等で訪ねていきます。地域包括支援センターが開催する研修会や地域ケア会議に参加しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアになっており出入りは自由に行えるようになっています。身体的拘束に関する研修は3月に1回行っています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の関する研修会を定期的に行い自分の介護を振り返る検討会を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する利用者様がpり地域包括支援センターに相談したり内部研修で取り入れています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な説明を行い利用者様、ご家族が納得した上での契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日常的なコミュニケーションの中から聞き出すことはあります。ご家族に関しては来訪時や電話対応でお話を聞くことがあります。玄関に意見箱を設けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は各々の委員会活動があり、意見や改善点等をホーム会議で発表する機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホーム会議に参加します。また定期的にホームの様子を見に来ます。月に1回の管理者会議で業績や職場環境の確認を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム会議内で内部研修を行っています。毎回テーマを変えていますが職員からのリクエストにも答えられるようにしています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市グループホーム連絡会を通じて交流会、研修会に参加しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と可能な限り面会を重ね信頼関係を築いていく努力をしています。その中で本心を聞き出せるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様同様に初回でご家族の困りごとに対してどのくらい答えられるかを明確にすることで不安が軽減されると考え。」ホームのスライドやおたより等で入居者様の笑顔を見ていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべく要望に応えられるように努めていますが本人とご家族にズレが生じるときは修正させてもらっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気大切にしていますので、大家族の一員として一緒に家事を行ったりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は大家族の一員としては存在しますが利用者様の本当のご家族が優先ですので我々はしっかりと線を引き支援しています。ご家族にはオアシスだよりのほかに担当職員から毎月手書きの一笔箋をお送りしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援を大切にしていますから、旧友と趣味のカラオケやおしゃべりを楽しむ日を提供したり、ご家族とゆっくり過ごす時間を提案させてもらっています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんどの方がリビングで過ごしますので利用者様同士の相性の把握ができる状況にあります。それらから配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的にはホームで亡くられるか病院で亡くられるかになってしまっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に努めていますが困難な場合もあります。毎月カンファレンスを行い困りごとを話し合っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の経歴は本人、ご家族、前ケアマネがいれば情報提供のお願いをしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月カンファレンスを行っているので担当者からの報告や困りごとを話し合っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様にはそれぞれの担当者がいますので担当職員と他職員、ケアマネ、看護師、医師、本人の訴えを出し合い常にチームで支えています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在はアイパットを使用し介護記録をしています。特変があれば別紙に記入するようにしています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月の散歩やホームでのイベントを沢山企画しています。春、秋の遠足や、テラスでバーベキューパーティーを行ったり、個別支援にも力を入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭り、防災訓練への参加。近所の商店への買い出しを行っています。最近は移動スーパーが月2回きてくれます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医がおり利用者様の7割が月2回の往診を受けています。その他の協力医療機関として歯科医、マッサージ師の往診があります。3割の方はご家族による受診がほとんどですが、職員が受診同行する場合があります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回来訪し、利用者様全員と面会しています。必要に応じ電話で相談したり介護職員は常に情報交換を行いアドバイスもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は同行している。入院中も情報共有に努めている。退院後の方向性やアドバイスをもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時にお話しさせていただきますが状態が変わった時には再度話し合いを設け終末期は医師からも説明をさせてもらっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急蘇生法の研修を受けています。緊急時の対応に関しては定期的に内部研修を行っています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加していて災害時は協力体制がとれるようになっています。土砂崩れ、津波の際は事業所に2階が待機場所になっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に人権の尊重と利用者本位の介護を行うように定期的に研修を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりの個性を引き出せるように傾聴したりよく観察するようにしています。過介護にならないように意欲を引き出せるような関りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のご希望を最優先できるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2月に1回訪問美容でヘアスタイルを整えています。毎日着る服は基本的に本人に選んでいただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様には野菜の皮むき、刻み、炒める等の調理補助をしていただいています。キッチンがリビングから見える位置にあるため調理の音、においなどから食欲増進効果が期待できる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回記録しています。十分な栄養が摂れない方はおやつや回数等で調節しています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員の声掛けにより個別に口腔ケアを行っています。できない部分に関してはお手伝いさせてもらっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	8割の方が布パンツを使用しています。ひとりひとりの排泄パターンを把握して失敗しない排泄を目指して取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操で身体を動かしています。10時のおやつには毎日フルーツヨーグルトを召し上がっていただきます。水分補給も声掛けをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴です。本人の希望に合わせて臨機応変に対応します。入浴剤などで気分を変えることもあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で横になる時間は基本的に本人に決めてもらっています。就寝時間もバラバラで本人の希望の時間に休んでもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬委員会があります。服薬管理ファイルがあり、ひとりひとりの情報が入っている。服薬の度に目を通すことになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性は家事をしていた方がほとんどなので家事レクをしてもらっています。カラオケが好きな方、歌が好きな方、将棋が好きな方、おしゃべりしたい方、読書したい方、それぞれを楽しめるように配慮しています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では毎日の散歩、近所の商店に買い出し、移動スーパーへの買い物があります。季節の行事では春、秋の遠足があり、ご家族との外出等があります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方はご家族の管理です。おやつやの買い物等は職員と一緒にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙はいつでも自由に行えます。ホームでは年賀状、暑中見舞いの絵手紙をレクレーション活動で作成しご家族に送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除し清潔を心掛けています。テレビの音は大きくなりすぎないように気を付けています。食事の時間は邪魔にならないように静かなBGMを流しています。温度は軽装で過ごせるように設定し快適に過ごせるように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング別途が置いてありいつでもどなたでも横になったり座ったりできるようになっています。またリビング、ダイニングで過ごすことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り自宅で使い慣れた物を使用いただいています。ご家族の写真が飾られています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は本人が使いやすいようにベットや家具の位置を調節しています。リビングはできるだけ自由に動けるように空間を広くとっています。		